三沢市地域公共交通会議　会議録

会議名称	平成２８年度　第２回会議					
開催日時	平成２８年１１月２４日（木）１４時００分～１５時３０分					
場　　所	総合社会福祉センター　２階　ホール４					
出 席 者	会　長	小渡　章好	副会長	宮古　直志	委　員	沼田　巌
	委　員	蛯名　和也（代理）	委　員	村川　信明（代理）	委　員	松橋　一典（代理）
	委　員	向中野　貢	委　員	山本　剛志	監　事	馬場　敏幸（代理）
	ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ	山中　信明				
	事務局	三沢市：田島参事、根岸課長補佐、岩織係長、中村主事 株式会社ケー・シー・エス：佐藤				
会議次第	１　開　　会 ２　会 長 挨 拶 ３　議　　事 （報告事項） （１）公共交通利用促進イベントの実施について （２）みーばすデコレーションの実施について （３）路線再編に向けた検討状況について ４　閉　　会					

会議の経過及び審議結果（概要）

１　開会

２　会長挨拶

３　議事

（報告事項）

（１）公共交通利用促進イベントの実施

事務局から資料：報告事項１を説明

＜主な意見＞

（小渡会長）

・写真を見ると非常に良い雰囲気である。子供がバスの運転席に座る機会はなかなかないので、なり切り体験会は非常に良かったのではないか。職員の皆さんも準備等で大変だったのではないかと思う。

（２）みーばすデコレーションの実施について

事務局から資料：報告事項２を説明

＜主な意見＞

（小渡会長）

・一般の方により SNS などのアップされたのか。非常に楽しそうだが、利用者の反応はどうだったのか。

（事務局）

・ハロウィンのデコレーションでは利用者の声などは把握していないが、クリスマスのデコレーションを行う際にはアンケート調査で反応を確認する予定である。

・バスの利用者は通学や買い物などの方々であり、普段の恰好で乗車すると違和感を感じることもあるのではないかと思ったため、少しでも仮装の気分を味わってもらうためにフォトプロップスを取り入れた。

（小渡会長）

・デコレーションを実施していない十和田観光電鉄の一般路線バスについても、例えば仮装の人は運賃を無料にするなどといったことをやれば、話題になり利用促進にもつながるのではないか。

（沼田委員）

・デコレーションを行った車両は１台だけか。また、今後デコレーション車両を増やすことなどは考えていないのか。

（事務局）

・八戸市では同様の取り組みを４台で実施しているが、予算の関係もあり今回は１台のみとなっている。また、今後車両を増やすかどうかについては未定となっている。

（山中オブザーバー）

・フォトプロップスの作成や、車両の飾りつけなどについて、保育所や幼稚園などにお手伝いしていただくようなことを行うと、親御さんがそのバスに乗ったりするため利用促進にもつながるのではないか。

（小渡会長）

・報道関係には PR したのか。取材には来たのか。

（事務局）

・新聞やテレビなどが取材に来た。

（沼田委員）

・デコレーション車両に乗ったら何か記念品のようなものがもらえる、といったことをやれば話題になるし利用促進にもつながるのではないか。予算の都合もあるが、それほど高額なものである必要はないので、何か工夫を考えてはどうか。

（小渡会長）

・非常に良い取り組みであるため、今後、例えば前もって保育所・幼稚園に声をかけるなど、さらに魅力的なものになるような工夫を考えてもらいたい。

（３）路線再編に向けた検討状況について

事務局から資料：報告事項３を説明

（小渡会長）

・ややこしい条件があり、データの組み合わせなども複雑だが、非常に分かりやすく資料にとりまとめてもらっている。

・人口が減少、特に通学で利用する高校生が減少していくなかで、公共交通は非常に厳しい状況となっているが、域内の移動・交流などを考える上でも公共交通は非常に重要であるため、忌憚のないご意見をいただいて、できるだけ良いものにしていくための検討を行っていく必要がある。

（馬場委員）

・三沢市内で新たな道路整備などがどんどん進んでいる。このままだと沿道にスーパーや住宅がはりつき、人口が減少していく一方で市街地の拡散が進んでいってしまうのではないかと感じる。

・そういった状況の中で公共交通を考えなければいけないとすれば、きめ細かい対応はもちろん重要だが、一方で 500m ぐらいは歩いてもらうなどの思い切った考え方も必要なのではないか。

（小渡会長）

・ご指摘の通り、全体として利用者が減っている中では、必要最低限の移動手段を確保していくような視点も必要になってくるのではないかと考えられる。ただし、例えば乗り継ぎを一つとっても、それほど影響を受けない利用者もいれば、非常に大きな影響を受ける利用者もいるため、そういった部分にも留意して考える必要がある。

（馬場委員）

・都市計画と公共交通の整合が取れていないのではないか。

（山本委員）

・庁内では整合を取りながら進めているものの、すぐにできる部分とそうではない部分がある。例えば焼山地区などをイメージされているのではないかと思うが、農業振興地域の網がかかっており、それを外すのが大前提となるが、すぐには難しいといったことがある。

（小渡会長）

・今後、３回のワーキング会議でさらに検討を進めていく予定であるが、非常に利用が少ない路線についてもきめ細かく検討していることを市民にも是非理解していただきたい。

（蛯名委員）

・北浜地域について、10～15 年前に比べると大きく利用が落ち込んできている。八幡方面だけではなく、追舘・塩釜方面も含めて、今後利用がどのようになっていくのか分からない中で、現時点ではないとも言えない部分がある。

（小渡会長）

・今の時点で決めた再編内容で例えば 10 年間続けていくというのは難しいのではないかと思う。状況はどんどん変化するため、数年ごとに変化にあわせた見直しを実施していく必要があるのではないか。

・地域の公共交通は非常に難しい問題であるが、だからこそ色々と工夫の余地がある。そういった部分を楽しんでいくような姿勢が重要になる。

（馬場委員）

・利用者が少ない地域などについては、小中学校の通学に使われているスクールバスの空き時間を利用して地域の人たちの移動需要に対応していくようなことも考えられるのではないか。

（事務局）

・北部地域の検討の中では、おおぞら小学校のスクールバス便を十和田観光電鉄が運行していることもあって、その車両をうまく活用して地域の移動に対応できないか検討した経緯がある。ただし、スクールバスの場合、日によって登下校時間が違っていたり、学校のイベントなどに車両を使用したりと、車両運用上の制約が大きく、路線バスネットワークの一部として取り込むことが難しいということで、現時点では方向性からは外している。

（小渡会長）

・スクールバスを路線バスに使用するには、ルール・制約上の問題があるのではないかと思うが、ルールが実情に合っていないのであれば、ルールのほうを合わせるような大胆な発想も必要である。

・事務局やワーキング会議は非常に頑張って検討しているが、やはり既存の制約条件を考慮せざるを得ない部分もある。場合によっては特区のような既存のルール・制約を変えるような方法も考えられるため、公共交通会議の中である程度自由な発想で意見を出していくことが重要である。

・地元新聞・テレビなどの報道機関は、常に楽しい話題のネタを探している。ほかのところでもやっていることだとなかなか報道されないが、新しいことであれば取り上げられる可能性も高くなるため、デコレーションの取り組みなども何か別のものと組み合わせて新しいものにしていくような工夫も考えてもらいたい。

（向中野委員）

・例えば三川目付近から市立病院までタクシーを利用する人も結構いる。以前から言っているが、病院に行くほど具合が悪い人はバスに乗ることは困難ではないかと思う。そういった視点も踏まえて、市民等の移動というものを考えていく必要があるのではないか。

（小渡会長）

・資料にもある通り、色々な制約条件や留意事項に配慮しながら検討を進めていく必要があるため非常に難しいが、分かりやすい資料を提示してもらうことで公共交通会議としても何とか踏ん張れている部分もある。何とかより良いものになるように、引き続き検討していきたい。

・三沢市の場合、十和田観光電鉄が地域公共交通の唯一の担い手となっているため、引き続きご協力をいただくとともに、担い手としてどのような取り組みができるのかといったことなどについても色々と考えていただきたい。

4　閉会